

小金井の地産地消追跡隊 Part2

速報！ 鈴木さん取材報告第一弾！

- 実施日 : 10月6日
- 取材メンバー：小田切さん、学さん、押田さん、かとう〜ん、まみこ
- インタビュー時間：14:00～15:00 ごろまで（おじいさん、息子さんそれぞれ30分程度）
- 使用機材：ビデオカメラ2台（人物のアップ用、ロングや風景用）、三脚、カメラ（風景、インタビュー風景撮影用）、ボイスレコーダー

インタビュー内容

※鈴木さん固有の情報を小金井の農業を昔から支えてきた鈴木さん（94歳）に着目し、鈴木さんならではの情報を聞き出すことを中心にインタビューを行った。

Q：農業をしていて大変なことは？

A：おじいさん…天候、風土などの環境に左右されてしまうこと。
息子さん…天候に左右され、人手不足（おじいさんと息子さん2人での作業）腰を使う作業、野菜を収穫するまでの管理をいかに丁寧にするか。
（→子育てと一緒に＝それほど苦にならない）

Q：農業を続けている意味は？？

A：おじいさん…収穫が上手くいったら嬉しい、たくさん野菜を食べてもらいたい。
息子さん…安心・安全・新鮮・旬な野菜を届けたい。

Q：昔と今との違いは？？

A：おじいさん…栽培作物の種類が増えた（ex. ブロッコリー、カリフラワー）、栽培方法が変わった。（ex. 機械化、肥料）
息子さん…環境が変わった（ex. 家がたくさん建った、温暖化の影響）、季節感がなくなった（ex. 暖冬の影響で収穫が早まった）、栽培作物が変わった（西洋化してきた）、技術が発達した。（ex. 土地から作る、海の肥料）

Q：思い・願い

A：おじいさん…水が確保できればお米を栽培したい（→白いご飯が食べたい）、後継者に頑張ってもらいたい、健康でやっていきたい、農業の現状を知ってもらいたい、お客さんとのコミュニケーションを大事にする。（→直売所の良さ）機会があれば子供にも農業体験をしてもらいたい。
息子さん…生産・技術の向上、一流の野菜農家になりたい、お客さんとのコミュニケーションを大事にし、意見を反映させて野菜作りをしていきたい、機会があれば子供にも農業体験をしてもらいたい。

取材後記

インタビューを通じて、鈴木さん親子の農業にかける想いや、願い、野菜作りに誇りをもっていることが伝わってきた。また、親子2代で農業に対する考え方の違いがある点も興味深く感じた。農業も他の産業と同様に、時代や環境の変化の影響を受けるため、栽培作物や農法などに変化があったようだが、農業に対する信念はずっと変わらずに持ち続けているように感じられたので、ドキュメンタリーでは、様々な変化がある現代のなかでも、変わらないものがあるということを感じてもらえるように工夫したいと思った。



小金井の地産地消追跡隊 Part2

速報！瀧本さん取材報告！

※小金井環境市民会議で「田んぼの時間」に取り組まれている瀧本広子さんからお話を伺った。

- 実施日 : 10月29日(水)
- 取材メンバー: 学さん、押田さん、しんぱん先輩、かとう〜ん、まみこ
- インタビュー時間: 12:15 ~ 12:45 ごろまで(約30分間)
- 使用機材: ビデオカメラ1台、三脚、カメラ(風景、インタビュー風景撮影用)

インタビュー内容



Q: 始めたきっかけは？

A: 小学5年生の授業でバケツで稲を育てる授業をしている。→ただの植物観察になってしまっている。実際のたんぼにはたくさんの動植物が見られる。→本当にこれで田んぼを知ることになるのか？

Q: 活動の一番の目的は？

A: 以前: 地域に田んぼがなかった。みんなに田んぼを知ってもらいたい。
現在: 親子のつながりの再発見(親が子供の前で汗をかいて労働する姿→親子にとって新鮮な体験)→家庭では見られない親子関係を見つける。

Q: こだわっているところは？

A: 環境共生型農法や有機農法などさまざまな農法に挑戦している。

Q: 伝えたいことは？

A: 今の時代、子どもだけでなく親も稲刈りをしたことがない人が多い。→多くの人に来てもらい、体験してもらいたい。

Q: 活動を通しての思いや願いは？

A: 農業の楽しさを知ってもらいたい→大人になって、農業をやりたいという子ども
農業の大変さを知ってもらいたい→農家への理解(有機の米作りの難しさなど)

Q: 今後の抱負は？

A: 農園はいつも違った風景をみせてくれる。
→守りたい、作り続けたい、子どもたちが活動が続けたいと言ったような活動にしたい
・・・など。続きは11月中旬の上映会をお楽しみに！

取材後記

田んぼでの活動は、単なるお米作りだけが目的というわけではなく、様々な生き物との関わりを子供たちに知ってもらったり、一風景の伝承であったり、さらには、新しい親子関係を発見できる活動だったり、たくさんの深い理由や願いがあることが分かりました。田んぼでの活動を通して、失われかけている大事なものを再認識し、瀧本さんの思いを伝えられるような内容にしていきたいと思いました。

また、瀧本さん自身、活動の目的が変わりつつあることや、新たなテーマがでてきたことなどから、新たに田んぼの可能性を模索しているような印象を受けました。今後の活動の展開についても興味深いと感じました。

